

令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：34007

学校名：北白石中学校

| 「学ぶ力」 | |
|--|--|
| 成果 | 課題 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の結果から ◇「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「学校に行くのは楽しいと感じている」生徒の割合は、昨年度の本校生徒の結果と比べるとやや多くなっている。 ・札幌市の共通指標の集計結果から ◇多くの項目で数ポイントの上昇が見られ、改善の兆しが見られる。 ◇「自分にはよいところがある」「人の役に立つ人間になりたいと思う」等の項目で90%を超える高い数値になっている。「自分が必要とされていると感じている」では昨年度 60%台から今年度 72%程度へと大きく増加したが、総じて高い数値とは言えないため継続した努力が求められる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査の結果から ◇学校で学習することの意義を見出すことができず、授業や家庭学習に意欲的に取り組めていない生徒がいること。 ◇起床や就寝時間等の基本的な生活習慣や家庭での学習が身に付いておらず、基礎学力も著しく低い。 ・札幌市の共通指標の集計結果から ◇「自分の意見を進んで発言しようとしている」「自分で計画を立てて勉強している」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」等の数値が向上しているも6割台程度の数値となっており、主体的に学ぼうとする態度の育成の余地が大きく残っている。 |
| 「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題 | |
| <p>◇札幌市の共通指標にある「自分が必要とされていると感じる」等の相互承認に関連する項目において R7年度までは 60.%台だったものが、70%台に初めて増加した。学校のカリキュラムや行事予定の検討の中で、時間的・精神的なゆとりを生み出し、生徒と教師間の「対話」の機会を重視し、生徒が仲間や教師と関わり合う取組を増やしてきたことが、自己肯定感の高まりに寄与していると考えられる。しかし、数値としては依然として高いとは言えないため、今後も、生徒の声に傾聴しながら多様性を包摂する中で尊重し、自信をもてるような機会や価値付けをしていく必要がある。</p> | |

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学びに向かう力・人間性等に着目した相互理解の感度

| 取組 | 課題探究的な学習の推進 に向けて | 自主的な活動の充実 に向けて |
|---|--|--|
| | <p>研究主題 「つながりの中で自信を持ち、探究し続ける生徒の育成」 副主題 「つながりの中から、主体的に探究する学びの実現」</p> <ul style="list-style-type: none"> →生徒が課題を自分ごととして捉えるための興味や関心をもたせる目標設定や単元を貫く課題と教材の工夫 →生徒自ら成長や学びの進捗を自覚できるような、振り返りの機会の設定や自己評価と相互評価の工夫 →生徒の心理的安全性を確保した中での対話の中から、思考を再構築させる話し合い活動の充実化。 →学びのユニバーサルデザインから生徒自ら選択・決定できる場面の設定 | <ul style="list-style-type: none"> ◇自分たちの手で学校生活をつくる実感もてる活動の充実 →ICTを活用して、生徒の声を反映させ、全校生徒が参画できる生徒活動。 (生徒会議案審議や生徒会役員選挙など) →生徒会のリーダーシップのもと、生徒の自主的な活動による学校生活の向上につながる取組の企画(いじめ防止、環境、SDG'sの生徒会企画) →対話や話し合い活動等を通じた合意形成の中で、相互理解と所属感を高める活動。 (学校行事における学級活動等) |
| 「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について | | |
| <p>◇他者との対話や自己対話の中で思考を深める場面や、自分の考えをまとめて発表する場面で1人1台端末を活用する。多様な試行錯誤： デジタルコンテンツやアプリ(ミライシード、オクリンクプラス等)を活用し、大量の情報収集や容易な試行錯誤の機会とする。学びのユニバーサルデザインと個別最適な学びの実現のための学習手段として、情報端末やアプリの使用を提供する。</p> | | |

<本プログラムの実行に向けて>

